

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.125 - 2019年5月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

親

愛なる会員、友人の皆さん、

ローマのイエスの聖心大聖堂からこの便りを書いています。あたかもイエスご自身が、我らが愛する父ドン・ボスコの建てた大聖堂の塔の上から四方の風に向け、真福八端の五つ目の幸いを、大声で叫んでおられるかのようです：

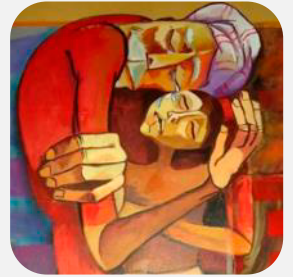
「憐れみ深い人は幸いである、その人たちは憐れみを受ける。」

「思いやりの心で目を向け行動すること、それが聖であるということです。」(「喜びに喜べ」82)

サレジオ会宣教師は、予防教育法を呼吸し、「発し」、したがってその輝きを放たなければなりません。予防教育法は私たちにとり、教育し宣教する存在として生きる「憐れみ」です。多くのサレジオ会宣教師について、明快に、心からあふれる言葉で言われています。「この人はすべての人の友達だ」と。実に、彼らを最も良く表す言葉として、その墓碑に刻まれるべき言葉です。彼らは「すべてにおいて兄弟と等しい者となられた神の御子になり」(会憲第30条)、「兄弟として青少年の間に入り、友人として積極的に彼らと共に生き」(会憲第39条)ました。友情にあふれ、普遍的な憐れみを示す、このようなサレジオ会員の最高の輝かしい模範は、尊者シモーネ・スルジに見られます。シモーネの生徒の一人は証言しています。「先生の慈愛はとても深く、先生に耳を傾け、愛さずにはいられませんでした。私たち子ども・若者への愛によって、スルジ先生は私たちの尊敬と私たちの魂を勝ち取ったのです」。ごらんください、憐れみの幸いが、サレジオの聖性となっています！

ここにサレジオ会宣教師の知恵があります。

宣教師顧問 ギジェルモ・バサニェス神父



偉大な存在の前で(オーストラリア・カリエロ・プロジェクト)

オ

オーストラリア・太平洋管区の長期ボランティア・プログラム、「カリエロ・プロジェクト」が始まったときから、カンボジアは常に優先される地域でした。

2008年以来、途絶えることなくボランティアが派遣され、カンボジアの素晴らしい若者たちのためのドン・ボスコのサレジオ会の働きを支えてきました。この驚異的な事業を支援するため、カリエロ・プロジェクトがささやかな役割を果たすことができたのは大きな恵みであり、喜びです。

オーストラリアの若い(そして心の若い)ボランティアたちにとり、作られつつある豊かな宣教の歴史に加わる機会になりました。カンボジアの事業は、世界中からやって来た宣教師たちの夢と労働の実りです - オランダ、フィリピン、韓国、イタリア、コロンビア、インド、ベトナム、そのほか多くの国から来ています。



私は毎年、ボランティアたちに会うため、カンボジアを訪れる機会に恵まれています。今年の訪問の際、思いがけず偉大なオランダ人宣教師、ジョン・ヴィッサー神父がプノンベンに滞在していました。ヴィッサー神父は、戦争によって引き裂かれた国の再建という困難な事業を開始するため、1992年にカンボジアに入った最初の外国人の一人でした。

ジョン神父は朝食をとりながらカンボジアで事業を始めた頃の思い出を語り、「初めて来たとき、我々は車しかなかったよ!」とクスクス笑いました。それから時代は何と変わったことでしょう! 今や、プノンベン、バタンバン、ポイベツ、ケップ、シアヌークビルに学校やオラトリオがあり、サレジオ会はカンボジア中からの、何千人もの最も貧しい若者たちと共に働いています。'半ば引退'しているにもかかわらず、変わることなく若者に目を向けるこの偉大な宣教師の前に、私は謙虚な気持ちになりました。

信徒・協働者と使命を真に共有して働くカンボジアの会員の、このような開かれた姿勢に受け入れられ、カリエロのボランティアは実に幸いでした。ボランティアにとっても、サレジオ会員にとっても、きっと常に順風だったわけではないでしょう。しかし、協働者とサレジオ会員の素晴らしい交わりが証しされました。この素晴らしい宣教共同体に参加できることは、私たちのボランティアにとって大きな恵みです。この関係が末永く続くことを私たちは期待しています。

カリエロ・プロジェクト・ディレクター、オーストラリア管区宣教促進担当者
ローレン・ヒチャーバ

聖性は、無条件の愛と奉仕



私

の宣教師の召命の誕生：私はベトナムに生まれました。私が若いころ、ベトナム人の宣教師は存在しませんでした。人々が思い描く宣教師のイメージは、祖国を後にし、故郷を再び見る事のない人、というものでした。当然、親は子どもに決してそのようなことになってほしくありません。修練生だったころ、私はすでにこの望みがありました。終生誓願の時まで胸の内にしまっていました。そして神学の3年目のある日、Ad Gentesすべての人への宣教師になるようにという招きを私は再び聞きました。私は真剣に祈り、自分を神のみ手の中に置きました。思いは千々に乱れました。日々の務めや勉強、試験がある中、数多くの心配、宣教師になったら立ち向かうことになることと想像される困難や挑戦の考えに襲われました。そのとき、最初の二人の宣教師がバブアニューギニアに派遣されました（彼らは私の生徒でもありました）。これに促され、私は総長に手紙を書きました。私の申し出は受け入れられました。

それから間もなく、姉が癌の診断を受け、病院で治療に入ったという知らせを受けました。看護師の一人は修道女で、私を知っていました。ある日、そのシスターは、姉の癌がとても危険なものだと教えてくれました。抗がん剤治療を受けなければならないと。余命は6か月、長くて1年と言われ

ました。私は姉のために涙を流しました。姉の影響で夫は洗礼を受けてカトリックになっており、幼い三人の子どもがいました。私は妥当な交換条件を示して真剣に神に祈りました：「私の命を取り上げ、姉を生かしてください」と。しかし、神は私たちよりも良い道をご存じです。神は、今日に至るまで姉の命と健康を保ってください、私をモンゴルに送ってくださいました。

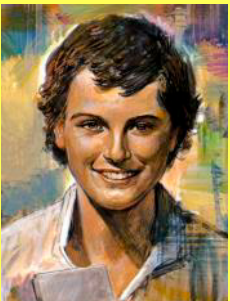
自分の意向を目上に、それから家族に話す時が来ました。母は私に行かないでと願いましたが、父は言いました。「お前は神のものだ。神がお前に望まれることをしなさい！」

宣教地での挑戦：若い神学生として、私はモンゴルの新しい宣教地に派遣されました（最初のグループ）。モンゴルの冬は6か月以上に及びます。気温は零下：-30、-40℃、時にはもっと低くなります。夏はとても短いのですが、35、40℃と、砂漠のような暑さになります。主食は肉、また肉。いかなる種類の果物も、聞いたことがありません！ 実際、どの季節も緑豊かで温かく、果物や野菜がふんだんにある私の国と、これ以上異なる場所はないでしょう！ その上、ここの言葉は、覚えるのも、書いたり話したりするのもとても難しいものです……しかし、宣教師としての召命において、こういったことは最大の挑戦ではないと皆さんに分かち合うことができます。私にとっての挑戦は、ほかのサレジオ会員と一致のうちに暮らし、共に働くことです。たとえ皆（私を含め）、とても熱心で宣教の熱意にあふれているとしても！

宣教におけるいちばん大きな喜び：私はモンゴルのすべての共同体で暮らしました（二つしかありません）！ 技術訓練校では、若者たちと共に過ごし、彼らが卒業して就職し、家庭をつくり、良い人生を築くのを見るのは喜びでした。卒業生の多くは私たちのもとを再び訪れ、感謝を表してくれず！ 教会にいるとき、私の喜びは人々が信仰を頂くのを見ることです。信仰を頂いた人々は、毎日のミサも喜んであずかります。私の国でも、私の兄弟たちにとってさえも、それは簡単なことではありません。ここの人々の信仰がどれほど大きいことか！ 私が最もうれしかった瞬間の一つは、ある若者がゆるしの秘跡を受けに来て、告解室で泣き出したときのことです！ それは喜びの涙でした！ 神が人々の心のうちにいかに働かれるか、私には想像の及ばないことでした！

若い宣教師たちへの私のささやかな思い：宣教師となって18年がたった今、次のように言うことができます。まず：宣教地へ赴く前に祈り、良い識別をしてください；自分の本当の動機を確かめてください；受容と忍耐の心をよく準備してください。第二に：毎日の黙想；イエスとの親密さ；自分の利益を何も求めないこと；まず共同体の生活を築くこと；ほかのサレジオの仲間を兄弟姉妹とすること；この兄弟姉妹を心から愛し、世話をすること；そうすれば、その土地の人々、特に若者はあなたの足跡に従うでしょう、聖性の歩み、無条件の愛と奉仕の歩みに従うでしょう。最後になりますが、大切なこと：すべてのことを、キリスト者の助け、聖母マリアにゆだねましょう！

ベトナム出身、モンゴルの宣教師 アンドリュー・ティン・グエン



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ビエルルイジ・カメローニ神父

聖ドメニコ・サヴィオ（1842 - 1857）は自分の目標を明確にとらえていました：「ぼくは聖人になりたい、聖人にならなければならない、聖人になるまでは幸せではない」。ドメニコの言葉は、ドン・ボスコが彼に伝えることのできたこと、すべてでないとしてもその多くを反映しています。それは、ドメニコが次の勇気を与える言葉を聞いた説教に始まりました：「聖人になるのは簡単です。私たちは皆、聖人にならなければならない。聖人になる人には、天国で大いなる報いが待っています。」ドン・ボスコ自身、自分の説教がドメニコ・サヴィオの心を燃え立たせ、神を愛する者とする火花だったと書いています。ドメニコは聖性を多くの仲間、特にジョヴァンニ・マッサリアと分かち合いました。この分かち合いから無原罪聖母信心会が生まれ、サレジオ会員の最初の世代を育苗床となったのです。

一致のためのパン種、アフリカの教会のために



サレジオ会の宣教の意向

アフリカの教会が、さまざまな民族の中で一致のパン種、アフリカ大陸のための希望のしるしであるように

実り豊かな「プロジェクト・アフリカ」を通して、サレジオ会は現在、アフリカの43の国々に200近い共同体があり、約3万5千人の協働者が共に働いています。すばらしい宣教の実り、教会とアフリカ大陸への贈りものであるサレジオ家族が、福音宣教の源泉、平和・一致・連帯の促進者となり、特に避難民と難民に心を向け世話するものでありますように。



Cagliari 11 (カリエロ11)の全バックナンバー：<http://salesians.jp/library/cariero>